

## 平成 29 年度公共交通ネットワーク調査研究会の活動報告について

## 1 検討内容

Nーバスの料金体系見直しの必要性

Nーバスは、運行を開始した平成 10 年当時からこれまでの間、65 歳以上を無料としており、現在の収支率は、県内コミュニティバスの中でも低い現状にある。

長久手市将来人口推計によると生産年齢人口は、平成 37 年（2025 年）をピークに年々減少すると推計されている。

そのことに伴い、税収も減少していくと推測され、行政負担を抑制していく必要がある。

長久手市地域公共交通網形成計画では、Nーバスの運賃体系のあり方について、庁内の関係課で構成する公共交通ネットワーク調査研究会で検討を行う旨が記載されている。

これらを踏まえ、平成 29 年度公共交通ネットワーク調査研究会の中で、Nーバスの料金体系の検討について合計 3 回の議論を行い、今後の方向性を示した。

## 2 スケジュールと検討議題

庁内会議	テーマと主な内容
第 1 回 12 月 25 日	<u>検討テーマについての現状の共通認識</u> ① 当研究会の目的の整理、今後のスケジュール ② Nーバスの現状（県内との比較、運賃値上げの事例）
第 2 回 1 月 25 日	<u>運賃体系変更シミュレーション及び考え方の整理</u> ① 公共交通に関する市民アンケート結果を活用した運賃体系変更案の収支シミュレーション ② 運賃体系についての考え方の整理
第 3 回 3 月 15 日	<u>運賃体系改善と連携して取り組む施策の整理</u> ① 運賃体系改善の課題・問題点の整理 ② 考えられる施策の整理 ③ これまでのまとめ

### 3 検討内容及び方向性

項目	議論の方向性
運賃体系の検討 までの背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来人口推計に基づいた税収見込みは、平成 37（2025 年）をピークに年々減少していくと推測される。そのために行政負担を抑制していく必要がある。</li> <li>・Nーバスの利用者数は増加傾向にあるが、平成 28 年度の運行経費は過去最大となっている。（1 億 2 千万円）</li> <li>・平成 10 年の運行開始以来、一度も運賃の見直しを行っていない。</li> <li>・高齢化や免許の自主返納者などに対する新たな移動需要に、Nーバスや既存の制度で対応するのは難しくなっている。既存の枠組みでは対応が難しい人達をカバーする「新たな施策」の検討が必要</li> </ul>
運賃体系の見直し の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効率的なNーバスの運行を図るため指標を作成し、適切な路線見直しを行うことで、運行経費の削減を図る。</li> <li>・受益者負担の考え方を全庁的に定め、運賃などの使用料を定期的に見直す仕組みが必要</li> <li>・「新たな施策」の実施にあたっては、Nーバスの効率化、受益者負担で捻出された予算の範囲で行う。</li> </ul>
運賃体系の考 え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運賃体系の見直しに合わせて、Nーバスの運行目的も検討する必要がある。</li> <li>・受益者負担の考え方に基づき、前期高齢者だけでなく、これまで無料としていた「就学前の児童に同伴する大人」も含め検討する必要がある。</li> <li>・運賃体系は、収支シミュレーションのケース 2 もしくは、ケース 3 とする。</li> </ul> <p>※ 収支シミュレーションは別紙 1 のとおり。</p>
クリアしなければ ならない課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受益者負担の考え方はNーバスだけでなく、使用料や手数料など全庁的な課題のため、市の総合的な計画である第 6 次総合計画の中で記載し、推進することが望ましい。</li> <li>・75 歳以上を無料とする場合、既存のあったかあどを使った方法では、運転手が確認できないため、75 歳以上の高齢者に発行する無料パスを作成する必要がある。</li> </ul>

## 収支シミュレーション

## 1 検討条件

収支シミュレーションにあたっては、以下の条件で検討を行った。

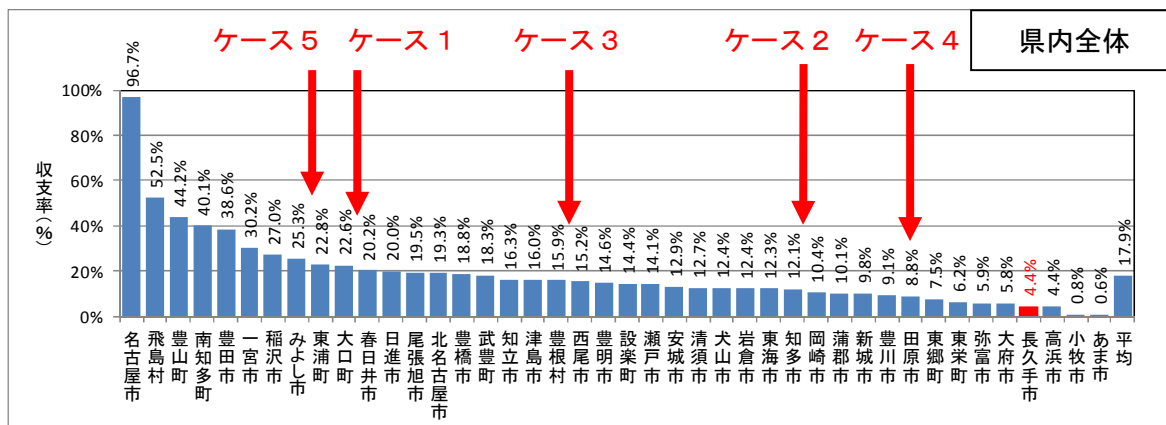
- (1) Nーバスの実績は平成 28 年度を基準とした。
- (2) 無料利用者は 65 歳以上の利用者と仮定し、前期高齢者と後期高齢者の割合は公共交通市民アンケート結果から算出。  
(65 歳～75 歳未満：43.6%、75 歳以上：56.4%)
- (3) 運賃の変化による利用者の増減は考慮しない。
- (4) 運行経費の変化は想定しない。

## 2 ケース別の収支シミュレーションの結果

項目	設定条件	現状	ケース1	ケース2	ケース3	ケース4	ケース5	
		65歳未満 100円	全て 100円均一	前期高齢者 100円 65歳未満 100円	前期高齢者 100円 65歳未満 200円	65歳未満 200円	65歳以上 100円 65歳未満 200円	
運賃設定 (円/人)	75歳以上	0	100	0	0	0	100	
	65～74歳	0	100	100	100	0	100	
	65歳未満	100	100	100	200	200	200	
利用者数 (人/年)	合計	243,742	243,742	243,742	243,742	243,742	243,742	
	無料	75歳以上	192,108	108,416	108,416	108,416	108,416	108,416
		65～74歳	192,108	83,692	83,692	83,692	83,692	83,692
有料	65歳未満	51,634	51,634	51,634	51,634	51,634	51,634	
有料乗車率		21.2%	100.0%	55.5%	55.5%	21.2%	100.0%	
運賃収入 (円/年)	75歳以上	0	10,841,600	0	0	0	10,841,600	
	65～74歳	0	8,369,200	8,369,200	8,369,200	0	8,369,200	
	65歳未満	5,163,400	5,163,400	5,163,400	10,326,800	10,326,800	10,326,800	
	計	5,163,400	24,374,200	13,532,600	18,696,000	10,326,800	29,537,600	
運行経費(円/年)		118,000,000	118,000,000	118,000,000	118,000,000	118,000,000	118,000,000	
収支率		4.4%	20.7%	11.5%	15.8%	8.8%	25.0%	
現状からの増収額 (円/年)			19,210,800	8,369,200	13,532,600	5,163,400	24,374,200	

※ ■色の着色は有料利用の範囲を指す。

### 3 愛知県内のコミュニティバスの収支率（平成 28 年度実績）及び 検討ケースごとの位置関係



資料：愛知県内の市町村における自主運行バス等の運行状況について（平成 29 年 5 月）

※無料で運行している自治体のコミュニティバスは除いている。